図1 方法

- ・紀南家保管内の4農家(A~D農家)に対し、 野草の刈り取り~給与の作業内容を聞き取り調査
- ・粗飼料として1頭あたりイタリアン乾草(50円/kg)を7kg/日給与すると想定した場合と比較
- 刈り取り場所の現地調査および植生調査

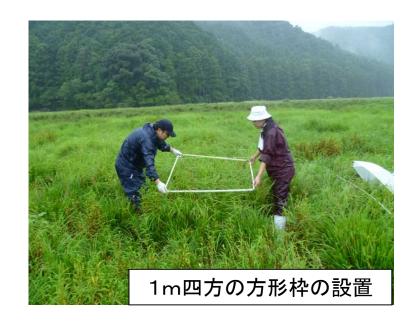




図2 A農家(概要)

飼養頭数	母牛27頭、子牛13頭		
	河川敷、耕作放棄地、その他約20ha		
野草の刈り取り場所	河川敷 原動機付草刈機(手押し)		
刈り取り期間、 時間	春~秋、週1回、1回2時間 (冬季は貯蔵した乾燥野草を給与)		
収量	1回の草刈りで1400kg		
野草給与量	8kg/頭/日		
植生	イネ科野草、マメ科野草、有毒植物なし		

図3 A農家(分析)

イタリアン乾草7kg×50円×365日×母牛27頭=¥3,449,259相当の支出削減

- ・重機を利用しやすい広い草刈り 場で、短時間に大量に刈る
- ・牛舎内に貯蔵スペースを設け、 回収の時間を節約する
- ・繰り返し刈り取りを行うことで 植生や収量を安定させる





図4 B農家(分析)

イタリアン乾草(7kg-4kg)×50円×183日×母牛28頭=¥768,600相当の支出削減

- 農場周辺の採草地なので、運搬時間が短い
- ・ 堆肥を採草地に還元出来る
- 時間あたりの収量が少ない



購入乾草への切り替えや規模縮小などを検討中

図5 C農家(分析)

- イタリアン乾草7kg×50円×274日×母牛36頭=¥3,452,400相当の支出削減
- 小さな刈り取り場所が点在しており、収量や植生が 安定しておらず、効率も悪い
- ・昨年度の取り組みによる有毒植物に対する意識向上 の成果が伺われた
- ・春頃より受胎率低下、不受胎牛に削痩が散見
 - →粗飼料として野草5kg/頭/日 + 自家製配合飼料
 - →栄養不足が疑われたため、指導を実施

図6 C農家(指導)

飼料計算を実施。全ステージでTDN、CP不足

→現状では野草の収量を上げるのは難しいため イタリアンストローを購入する。

自家製配合飼料の組成・給与量調整も実施。

		調整前		調整後	
維持期	TDN充足率	80%	\rightarrow	106%	
	CP充足率	103%	\rightarrow	140%	
妊娠末期	TDN充足率	89%	\rightarrow	102%	
	CP充足率	93%	\rightarrow	126%	
泌乳期	TDN充足率	94%	\rightarrow	100%	
	CP充足率	96%	\rightarrow	104%	

→削痩は徐々に改善。受胎率も向上。

図7 D農家(概要)

飼養頭数	母牛3頭、子牛2頭			
野草の刈り取り場所	放牧場(耕作放棄地) 5ha			
刈り取り期間、 時間	4月~11月、月10回、1回2時間 (冬季は購入イタリアン乾草を給与)			
収量	1回の草刈りで100kg			
野草給与量	舎飼い飼料として飽食			
植生	イネ科、マメ科野草、有毒植物なし (昨年度、キョウチクトウ中毒疑い例あり)			

図8 D農家(分析)

イタリアン乾草7kg×50円×243日×母牛3頭=¥255,150相当の支出削減

- •本業は建設業。放牧を活用し作業時間短縮。
- ・畦や原野から得た野草を牛に給与し、牛耕で田畑を耕し 堆肥を還元する農村型循環社会の復活・集落活性化を 目指す。